石巻特進スクール発行の楽しく読んで学力アップと入試に強くなるお得な情報誌

第199号　発行日　平成25年8月4日

合格通信

今月の名言

正直とか、親切とか、友情とか、
そんな普通の道徳を堅固に守る人こ
そ、真に偉大な人間というべきである。

― アナトール・フランス ―
（フランス作家）

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ
の方々、お父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

国語の学習方法②

想像力を働かせて、自分が文章の中に入り込む。

語句の意味や漢字が読めるようになれば、次は想像力を働かせて文章を読むことが大切です。

例えば次の文章はある教科書に載っている一文です。

一体何が始まるのだろう。ぼんやり見守っていると、コーンちゃんが手ですくったおかゆを、ひょいと男の子の口もとに近づけ食べさせてやったのです。これには度肝を抜かれました。同行していた写真記者は、あわててシャッターを切りました。自らも思い栄養失調であり、しかも乏しい食事をわずか３歳の幼い子どもが他人に分けてやる。難民キャンプという一つの極限状態の中で、たった三つの子どもが他人への思いやりを失わずにいる。

この文から想像してほしいことは、まず一つは、この文章で描写されている場面です。この場面は、場所はどこで、そこはどんな人たちがいて、今どのようなことが行われているか。そしてこれをかいた人はどんな人か、という情景をまず想像してほしいのです。細かいところは、実際の様子と違っても構いません。自分なりに一生懸命想像力を働かせたらOKです。

そして二つ目は、その場面に自分も入っていくことです。ここができない人が多いのです。読んでいる文章に興味を持つことができず「こんなの自分には関係ないことだ」という気持ちのまま読んでいるのです。そのような態度でいる限り。その文章を書いた筆者の本当の気持ち、登場人物の気持ちなど分かるはずはありません。気持ちを落ち着かせて、時間をかけて、その情景をじっくり想像してみることです。そうすると上の文章からは次のようなことが分かってきます。

～裏面へ

「もし私がこの場面にいたら、こんなことができるだろうか」

「自分も苦しいのに、こんなことができる3歳の子どもはおとなになったらどんな人になるのだろうか」

「でも私も、戦争で食べ物がなく、みんな苦しい状況にいたらこの子と同じことをするかもしれない」

「こんな小さな子どもにこんな思いをさせるなんて戦争はやっぱりひどい」

このような感情が次々とわきおこってきます。

　このように文章を読んで、自分がその場面を中に入っていくことができたら、まず国語の成績向上の第一歩を踏み出したことになります。どうすれば、その場面に自分も入っていき、感情が湧き上がってくるかということを真剣に考えてみましょう。

　まずは想像力を働かせて情景を考えてみること、そして感情が浮かぶまで時間をかけて待つことが重要と言いました。これは文章を読んだその場でしなければならない努力です。

　次回は、机に向かって国語を勉強している時間以外に、心がけなければならないことについて話します。

・・・次回に続く。